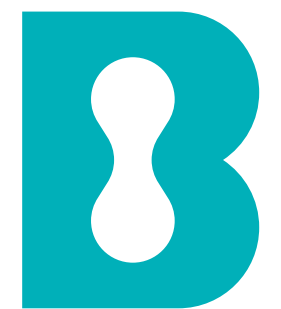


mcframe PLM 導入事例

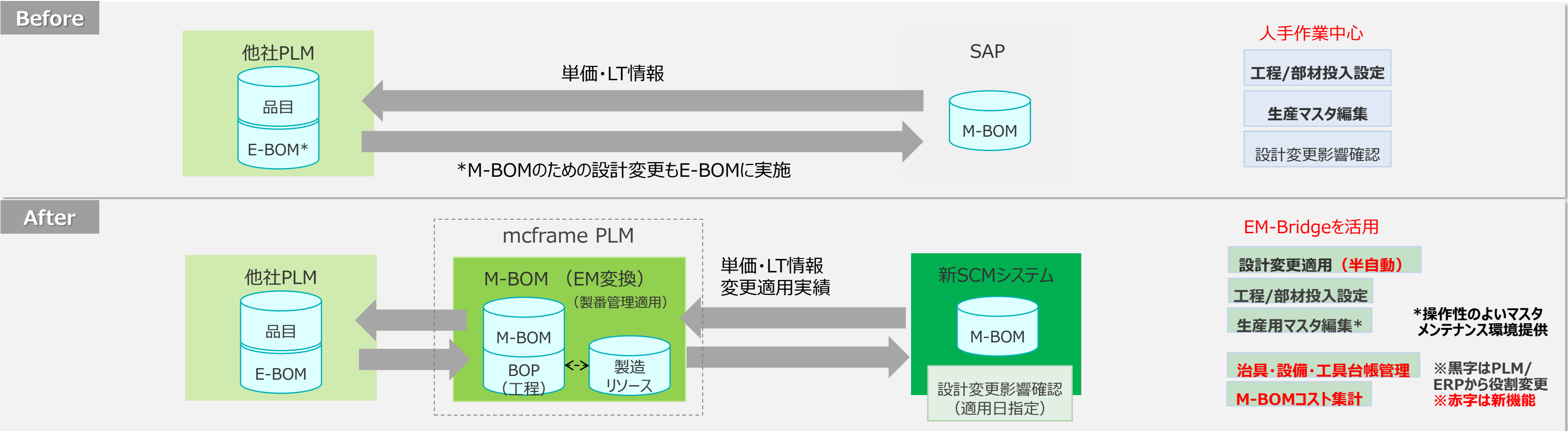


B-EN-G

Business Engineering for Growth

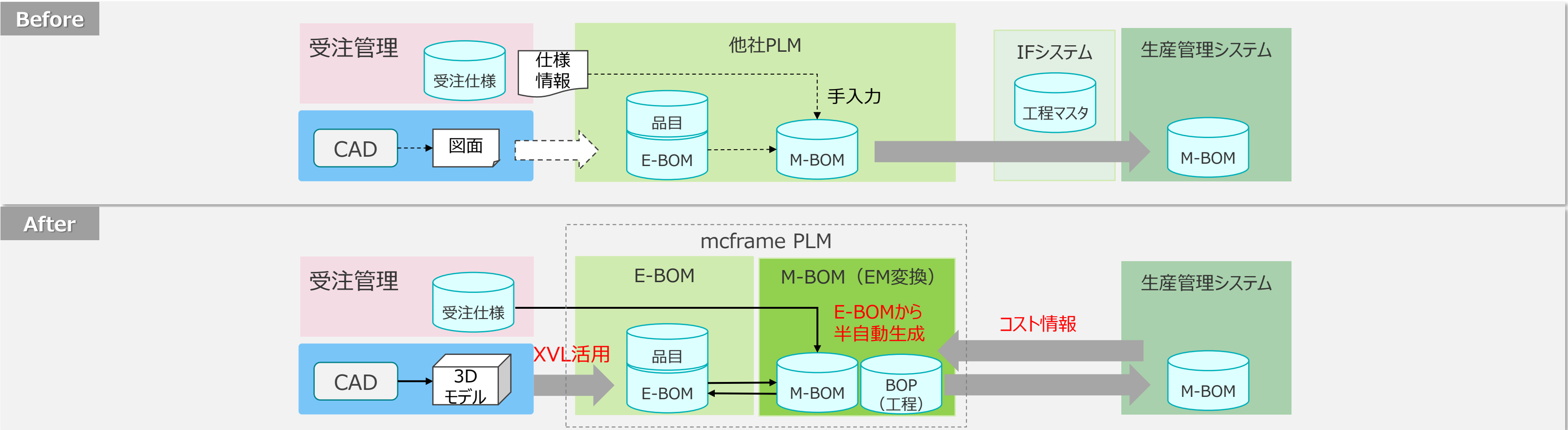
事例 1 : M-BOM管理の高度化, M-BOM作成効率化

Point	No.	課題	対応
・SAPリプレイスに併せEMBを検討 ・設計変更適用効率化 ・生産システム用マスタ編集効率化 ・製造リソース台帳管理 ・M-BOMコスト集計	1	M-BOM/BOP作成 ・E-BOMとM-BOMの分離 (M-BOM構成をE-BOM側に反映し、ERP側で工程設定) ⇒ 設計負担高 ⇒ 製造まで連携リードタイム長い	E-BOMとM-BOMの分離 ⇒ 生産側でM-BOM作成,設計変更容易化 (E-BOM・M-BOM連携性確保) ⇒ 製番別M-BOMBOM管理導入で、号機ごとの設計変更を適用/管理 マスタメンテナンス操作性の向上
	2	生産技術情報やコスト情報の見える化 ・手管理(エクセル管理)	システムによる一元管理 ⇒ 治具, 設備, 工具等の台帳管理 ⇒ M-BOMを利用したコスト集計



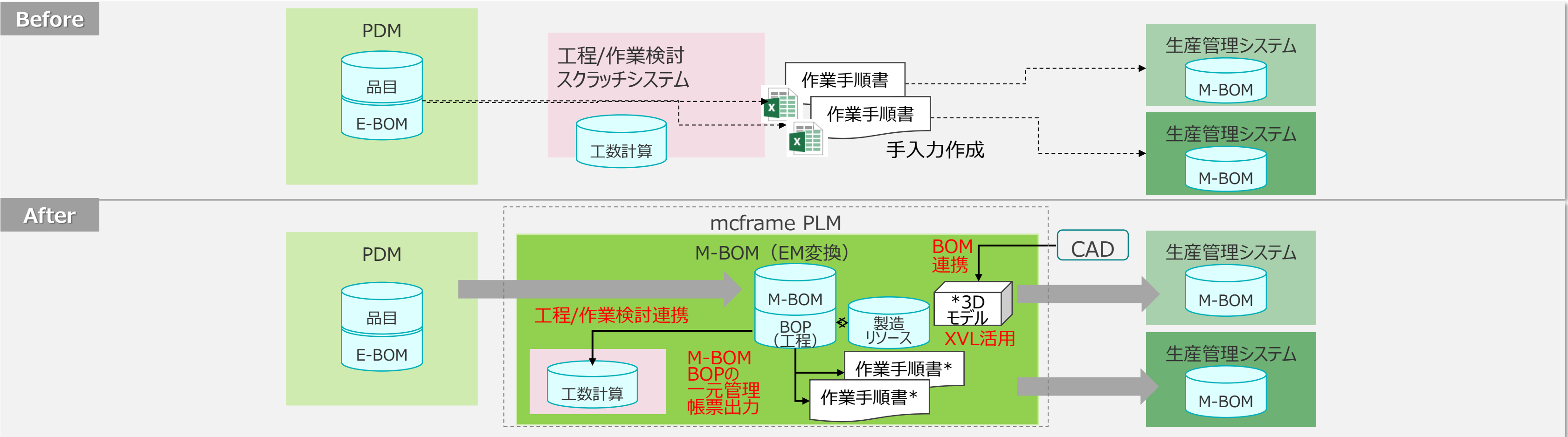
事例 2 : E-BOMとM-BOMの連携強化, M-BOM作成効率化

Point	No.	課題	対応
- PLMリプレイス - E-BOMとM-BOMのトレーサビリティ 設計変更対応の効率化 - M-BOM作成効率化 コスト情報活用/ 3Dデータ活用	1	M-BOM作成の効率化 ・型式から経験を用いて図面を探し、都度、 受注仕様に合わせM-BOMを手作成	M-BOMの半自動生成 ⇒ BOM作成のためのルールを数式化 ⇒ 工程情報も同時に生成
	2	コスト算出の簡易化 ・受注の都度、Excelでコスト見積集計実施	BOMに原価情報をフィードバック ⇒ 自動生成したBOMに原価情報を付与し、見積や設計段階でのコスト検証を効率化
	3	設計データの一元管理と有効利用 ・設計文書が技管が管理しており、情報を取得するため には都度問合せが発生	情報一元管理 ⇒ 設計、生技、製造情報をPLMプラットフォームに一元化 ⇒ 3Dデータの有効活用(E-BOM作成, CAD連携)
	4	トレーサビリティの向上 ・M-BOMのトレーサビリティを実現したい	BOMのリレーション管理 ⇒ E-BOMとM-BOMの連携性確保 ⇒ M-BOMの履歴管理



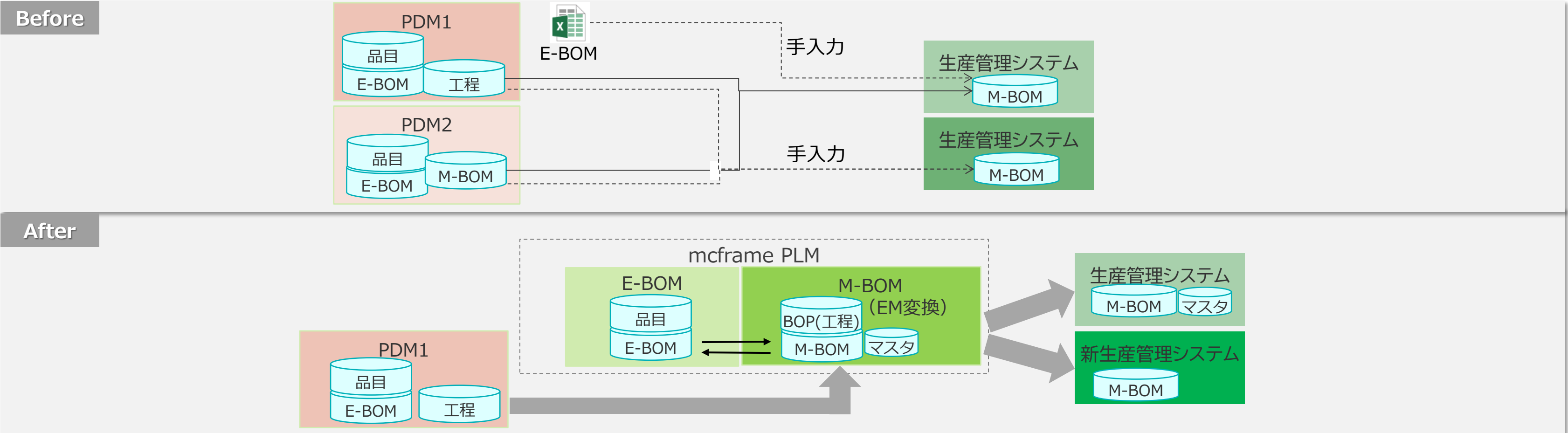
事例 3：生産技術情報の集約，複数ERP連携

Point	No.	課題	対応
・M-BOMシステム導入 ・生産技術情報の一元管理 - M-BOM作成の効率化 - 複数ERP情報の一元管理 ・作業手順書作成の効率化	1	BOP/M-BOM作成・管理 効率化 ・拠点毎に複数のBOP情報を管理 ・工程情報の統合管理 ・不具合情報活用による品質向上	M-BOM管理の高度化 ⇒ E-BOMとM-BOMを連携(差分と履歴の管理) ⇒ 工場別・製造場所別のBOP管理 ⇒ 工程情報(設備・治工具・手順書・作業標準)を一元化 ⇒ 過去トラ情報の統合と再利用性向上のための検索機能強化
	2	作業手順書作成 ・複数拠点分作成の効率化	3Dデータの活用 ⇒ 3Dデータを利用し、作業標準書を半自動生成
	3	手作業による情報連携 ・工程情報の再利用性向上 ・標準工数計算(VBA)活用	システムのパイプライン連携 ⇒ 品目・M-BOM・BOPを生産管理システムと連携。(複数システム連携) ⇒ 部品と要素作業の選択による工数算出機能と連携



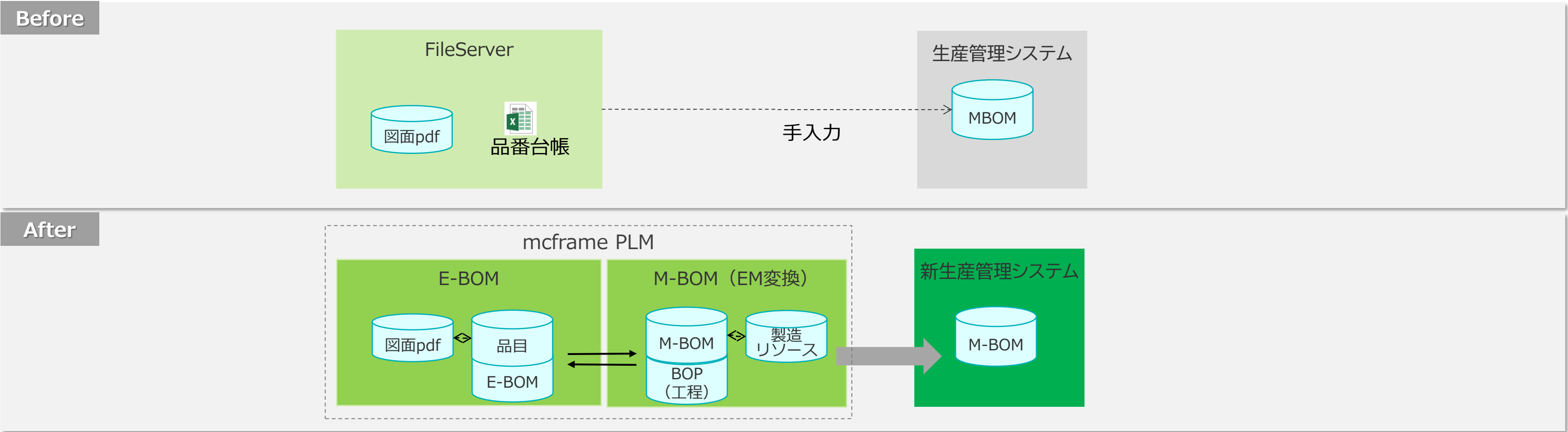
事例 4：設計変更対応, 生産技術情報の集約, 複数ERP連携

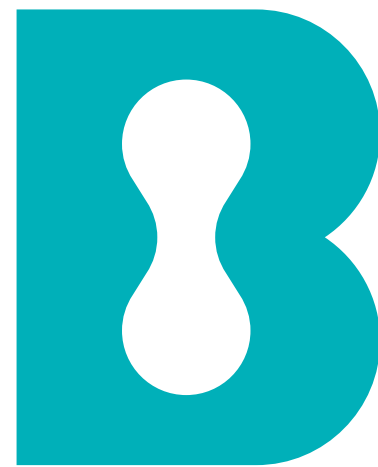
Point	No.	課題	対応
・PLM／ERPリプレイス（一部） ・生産技術情報の一元管理 - M-BOM作成の効率化 - 設計変更適用の半自動化 - 複数ERP情報の一元管理 ・生産システムのマスタ管理 - 複数ERP情報の一元管理 - 設定項目毎の役割分担明確化	1	M-BOM作成 ・構成、工程、その他BOM管理で任意項目を管理したい ・設変時、BOM属性(工程、歩留等)を再入力したくない ・設変が多く、上流工程の入力情報を有効活用したい	M-BOM管理の高度化 ⇒ M-BOM/BOP作成の半自動化 ⇒ 属性やマスタの追加編集機能で設定 ⇒ 設変前の属性を自動継承し、変化点だけを編集可能とする機能を利用
	2	BOM一元管理 ・マルチ会社・工場のBOMの一元管理 ・設計視点と製造・調達視点では品番・BOMの粒度が異なる ・BOM属性は生技が設定、生管での変更を制限したい	BOM一元化と責任分担の両立 ⇒ グループ全体のBOMを一元的に作成・管理 ⇒ 設計情報やERP連携において粒度違いを吸収する仕組みとして利用 ⇒ 生技がEM-Bridge上でBOM編集し、生管が製造情報を生産管理システムで編集
	3	複数システムとの連携 ・設変の変化点管理をしたい ・BOM適用開始日、終了日を管理したい ・mcframe以外の生産管理システムとも連携したい	システムのパイプライン連携 ⇒ M-BOMを作成し、適用開始日を設定し送信。微調整は生産管理側にて実施 ⇒ 1つのBOM変更承認に対し、複数システムへの送信を実施



事例 5 : M-BOMによるERP連携強化

Point	No.	課題	対応
- PLMシステム新規、ERPリプレイス - 設計/BOM情報の一元管理 - M-BOM作成の効率化 - 原価情報活用 - 生産システムのマスタ管理 - 設定項目毎の役割分担明確化	1	原価情報管理 量産開始時の原価見積り情報を管理したい	ERPデータのフィードバック ⇒ 生産管理システムの原価情報を取得
	2	設計データの一元管理 設計/生産技術情報の一元管理と情報共有	情報一元化 ⇒ 工程・製造リソース(設備・金型情報など)の管理 ⇒ ドキュメント・管理項目などを一元管理集
	3	役割の明確化 生技・生管による管理属性の編集部分を明確化し、担当部門に入力させたい	アクセス権限管理による統制 ⇒ E-BOM/M-BOM/生産管理システムで編集対象属性を分けて管理
	4	M-BOM作成・効率化 - 上流工程の入力情報を有効活用したい - 生産システム連携したい	最適なパッケージ選定 ⇒ 連携機能を有するパッケージを選定





B-EN-G

Business Engineering for Growth